

総合科目「舞台芸術に触れる」

1. 授業概要

・授業の目標：舞台芸術を観る目を養い、語劇の質的向上に役立てるとともに、広く言葉と身体文化の関係について考える。

・授業の概要：専任教員やゲスト・スピーカーによる講義を通じて舞台を観る目を養う。また、受講者各自が作品を選んで実際に劇場で舞台作品を鑑賞する。

・授業の計画：専任教員による講義の他、舞台芸術に携わるプロフェッショナルをゲスト・スピーカーとして招き、演劇・オペラ・バレエ作品の重要な場面をビデオで鑑賞しつつ、生きた舞台芸術を実際に劇場で観ることの意義を理解します。毎回簡単なレスポンスペーパーを提出してもらいます。また、受講生の自己負担で作品を鑑賞し、その1作品についてレポートを提出してもらいます。

初回の授業で詳しいスケジュールや、新国立劇場のアカデミック・プランなどいくつかの優待・割引制度についての解説をします。

講義で取り上げる予定のテーマは、劇場という空間、シェイクスピア、ブレヒト、チャーホフとスタニスラフスキー、スペイン・バロック、ロルカ、バレエ、オペラ、日本の伝統芸能、フラメンコ、21世紀のパフォーミング・アーツ、など（ゲストの日程調整の関係で、詳しい内容・順序は未定）。

・成績評価の方法：各回のレスポンスペーパーと作品の鑑賞レポートにより評価します。

・受講上の注意：作品鑑賞の実費は受講生の自己負担。語劇支援を念頭に置いて企画した講義ですが、語劇参加者に限らず、言葉と身体に興味を持つ多くの学生の聴講を期待します。

・テキスト・教材・参考書等：初回の授業で、全体に共通する文献・資料の一覧を配布するとともに、各回必要に応じてプリント配布。

2. 授業日程

1	04/14	月	川上茂信	オリエンテーション
2	04/21	月	近藤弘幸 (学芸大学)	ヨーロッパ演劇を考える I: シェイクスピア
3	04/28	月	柳原孝敦	ヨーロッパ演劇を考える II: スペイン演劇
4	05/12	月	谷川道子	ヨーロッパ演劇を考える III: プレヒト
5	05/19	月	渡辺雅司	ヨーロッパ演劇を考える IV: チェーホフとスタニラフスキー
6	05/26	月	麻田 豊	ヒンデー・パキスタン公演をめぐって
7	06/02	月	永田宜子 (新国立劇場)	新国立劇場バレエへの招待 (仮称)
8	06/09	月	佐藤まいみ (彩の国劇場)	世界のダンス事情 (仮称)
9	06/16	月	山下美和子	アジアの舞台芸術を考える: フィリピンの民族舞踊 (仮称)
10	06/23	月	松井憲太郎 (SePT)	アジアの現代演劇のコラボレーションとその言語の問題
11	06/30	月	川上茂信	フラメンコ
12	07/07	月	馬場彰	オペラへの誘い
13	07/14	月	柴田勝二	日本の演劇
14	07/22	火	佐野勝也 (演出家)	21 世紀のパフォーミング・アーツ